

34 棟 校舎棟(W 造)

既存木造学校建物の耐力度測定

別海町立別海中央中学校 34 校舎棟

目 次

1. 耐力度調査票	6- 1
2. 建物概要	6- 3
・ 調査概要書	
・ 学校施設台帳	
・ 意匠図、構造図、改修図	
・ ボーリングデータ	
・ 外観写真	
3. 構造耐力度測定	6- 20
・ 保有耐力	
・ 層間変形角	
・ 基礎構造	
・ 地震による被災履歴	
4. 健全度測定	6- 22
・ 経過年数	
・ 鉄筋腐食度	
・ コンクリート中性化深さ等及び鉄筋かぶり厚さ	
・ 躯体の状態	
・ 不同沈下量	
・ コンクリート圧縮強度	
・ 火災による疲弊度	
5. 記録写真	6- 27
6. 外力条件	6- 31

1. 耐力度調査票

別表第
(表面)

木造の建物の耐力度調査票

IV 学校種別 中学校
V 整理番号 1553

I 調査学校	北海道	別海町	中央中学校	5183	調査期間	令和6年9月21日～令和6年9月23日			III 結果	点数	
	調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	伊井 崇史	伊井 崇史	伊井 崇史	① 構造耐力	耐力度		
			第311048号	氏名				83		④×⑤×⑥	
子調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名	佐藤 文彦	② 健全度	92	③ 立地条件	6,872			
II 調査建物	棟番号	階数	面積	建物の経過年数	被災歴				補修歴	92	0.90
校舎	34	1+0	一階面積	建築年月	H6年1月	長寿命化年月	一年一月	種類	被災年	内容	補修年
			延べ面積	経過年数	31年	経過年数	一年	-	-	-	-

A 構造耐力	① 保有耐力	(a) 水平耐力 q	階	上部構造評点lw			qi=lw/1.1	q=min(qx,qy)	判別式		評点		評点合計	
				桁行方向	-	-	-	-	1.0 ≤ q	1.0	⑦	⑦(⑦×⑦)		⑧(⑦×50)
	張間方向	-	-	-	-	0.3 < q < 1.0	q	①	0.72	0.72	36.0	83.0		
	低減係数	接合Kj	偏心Kr	基礎Kf	判別式		評点							
		0.8		1.0		0.9		Kj×Kr×Kf=0.72						
B 耐震	② 構法の特性	耐力壁等の種類による指数							評点		評点合計			
		筋かい9cm以上 面材耐力壁			1.0				⑧			⑧(⑧×20)		83.0
		上記以外			0.6				1.00			20.0		
方柱の取り付け柱の断面120角以下			0.6											
C 基礎	③ 基礎構造 β	種別指数u		基礎の被害予測に関する指数p		β=u×p		判別式		評点		評点合計		
		基礎III	0.8	液状化が予想される地域	0.8	0.9		1.0 ≤ β	1.0	⑨	⑨(⑨×30)		⑩(⑨×⑩)	
		基礎II	0.9	軟弱地盤	0.9	0.9		0.64 < β < 1.0	直線補間	0.90	27.0			
基礎I	1.0	上記に該当しない場合	1.0	0.9		β ≤ 0.64	0.64							
D 地震	④ 地震による被災履歴 E	過去の経験した最大の被災度				無被害被災経歴なし, 新材で補修		評価		評点		評点合計		
		軽微	小破	中破	大破	1.0		1.00		⑩			83.0	
		1.0		1.0		0.7		0.5		1.0				

B 健全度	① 経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t2	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点		評点合計						
		31年	T=(40-t)/40 = 0.23	-年	T=(30-t2)/40 =	⑪	⑪(⑪×10)		⑫(⑪+⑫+⑬+⑭)					
	② 木材の腐朽度 D	外壁土台・外壁柱	部位	外壁土台			外壁柱			判別式		評点		92.3
			腐朽度の判定	腐朽長	外壁長	腐朽度d1	腐朽本数	外壁柱本数	腐朽度d2	max(d1,d2) ≤ 0.3	1.0	⑬	⑬(⑬×20)	
				0.3 < max(d1,d2) ≤ 0.6			直線補間			1.00		20		
				0.6 < max(d1,d2)			0.5							
			床梁・小屋梁	部位	2階床梁			小屋梁			判別式		評点	
	腐朽度の判定	腐朽本数		床梁本数	腐朽度d3	腐朽本数	小屋梁本数	腐朽度d4	max(d3,d4) ≤ 0.3	1.0	⑭	⑭(⑭×20)		
		0.3 < max(d3,d4) ≤ 0.6			直線補間			1.00		20.0				
		0.6 < max(d3,d4)			0.5									
③ 基礎の状態 F	基礎の劣化			基礎の傾斜			判別式		評点		評点合計			
	割れ有の基礎長	外周基礎全長	健全度df	相対沈下量	測定基礎長	沈下率φf	max(dφ, φr × 100) ≤ 0.2	1.0	⑮	⑮(⑮×20)		⑯(⑮×⑰)		
		0.00		10.14		0.00								
		0.2 < max(dφ, φr × 100) ≤ 0.5		直線補間		1.00		20						
		0.5 < max(dφ, φr × 100)		0.5										
④ 部材の傾斜, たわみ R	柱の傾斜	方向	張間方向			桁行方向			判別式		評点		92.0	
		傾斜率の測定	傾斜率r1	傾斜率r2	傾斜率r1	傾斜率r2	傾斜率r2	max(r1,r2) ≤ 0.002	1.0	⑰	⑰(⑰×15)			
			0.002 < max(r1,r2) ≤ 0.005			直線補間			1.00		15			
			0.005 < max(r1,r2)			0.5								
		床梁のたわみ	部位	1階			2階			判別式		評点		
相対たわみの算定	たわみ量		最大スパン	相対たわみθ1	たわみ量	最大スパン	相対たわみθ2	max(θ1, θ2) ≤ 0.002	1.0	⑱	⑱(⑱×15)			
		0.002 < max(θ1, θ2) ≤ 0.005			直線補間			1.00		15				
		0.005 < max(θ1, θ2)			0.5									
⑤ 床鳴り, 振動障害 A	床鳴りの有無 α			振動障害の有無 β			合計		判別式		評点			
	無し:0	軽微な床鳴り:1	多数の床鳴り:2	無し:0	時々振動を感知:1	常に振動を感知:2	α+β	α+β ≤ 1	1.0	⑳	1.0			
		0.0		0		0.0		α+β = 2		0.9				
		3 ≤ α+β		0.8										
⑥ 火災の被災経験 S	被災部を新材で補修:0						判別式		評点		評点合計			
	S ≤ 1						1.0		㉑					
	S = 2						0.95		1.0					
						S = 3		0.9						
⑦ 雨漏り痕の有無 U	被災部を新材で補修:0						判別式		評点		評点合計			
	U ≤ 1						1.0		㉒					
	U = 2						0.95		1.0					
						U = 3		0.9						

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評価		評点				
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	その他地域		1.0	海岸から8kmを超える	1.0	⑳ = ①+②+③+④+⑤ = 0.8+0.9+1.0+0.8+1.0 = 5.5 ① = 0.9
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	傾斜地(3m未満)	0.9	二級積雪寒冷地域		0.9	海岸から8km以内	0.9	
	二種地域	0.85	三種地盤	0.8	崖地(3m以上)	0.8	一級積雪寒冷地域		0.8	海岸から5km以内	0.8	
一種地域	0.8											

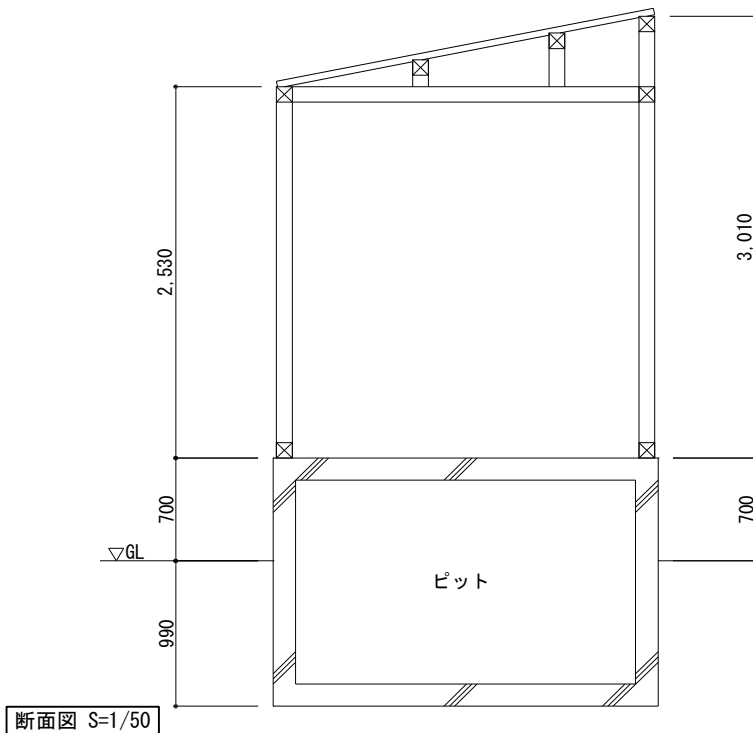
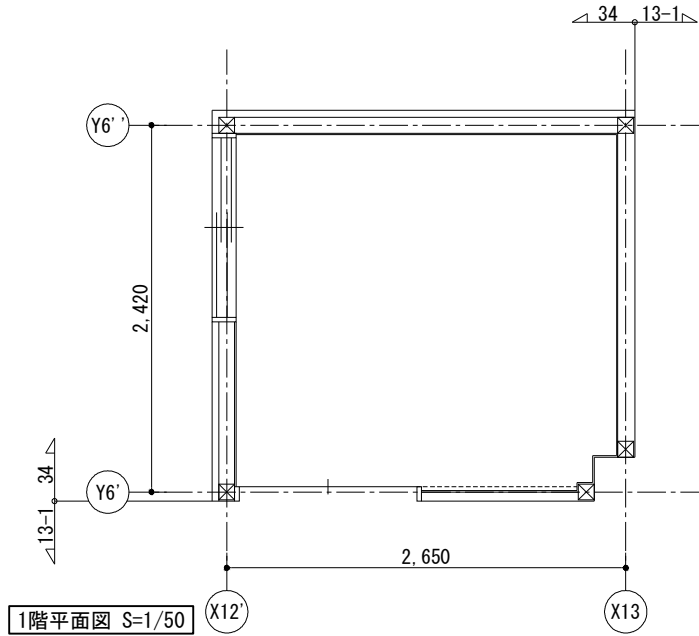
(裏面)

学校名 中央中学校

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

構造耐力は接合金物にかすがいが用いられていたこともあり83点と比較的低い値である。
健全度は、劣化は確認されなかったため92点であり健全な状態と言える。



建築年	平成6年1月
延べ面積	7㎡



2. 建物概要

調査概要書

建物名称：別海中央中学校 34棟 校舎

所在地：野付郡別海町別海緑町 116番地 4

竣工年月日：平成 6年 1月

構造：木造(W造)

規模：階数 1階
軒高 3.71m
床面積 7 m²

調査項目：構造耐力 保有耐力
構法の特性
基礎構造
地震による被災履歴

健全度 経年変化
木材の腐朽度
基礎の状態
部材の傾斜、たわみ
床鳴り、振動障害
火災の被災履歴
雨漏り痕の有無

被災の状況：無

設計図書の有無：意匠図 — 無

設計図書の有無：構造図 — 無

設計図書の有無：構造計算書 — 無

外力条件：地震地域係数 — 1種地域

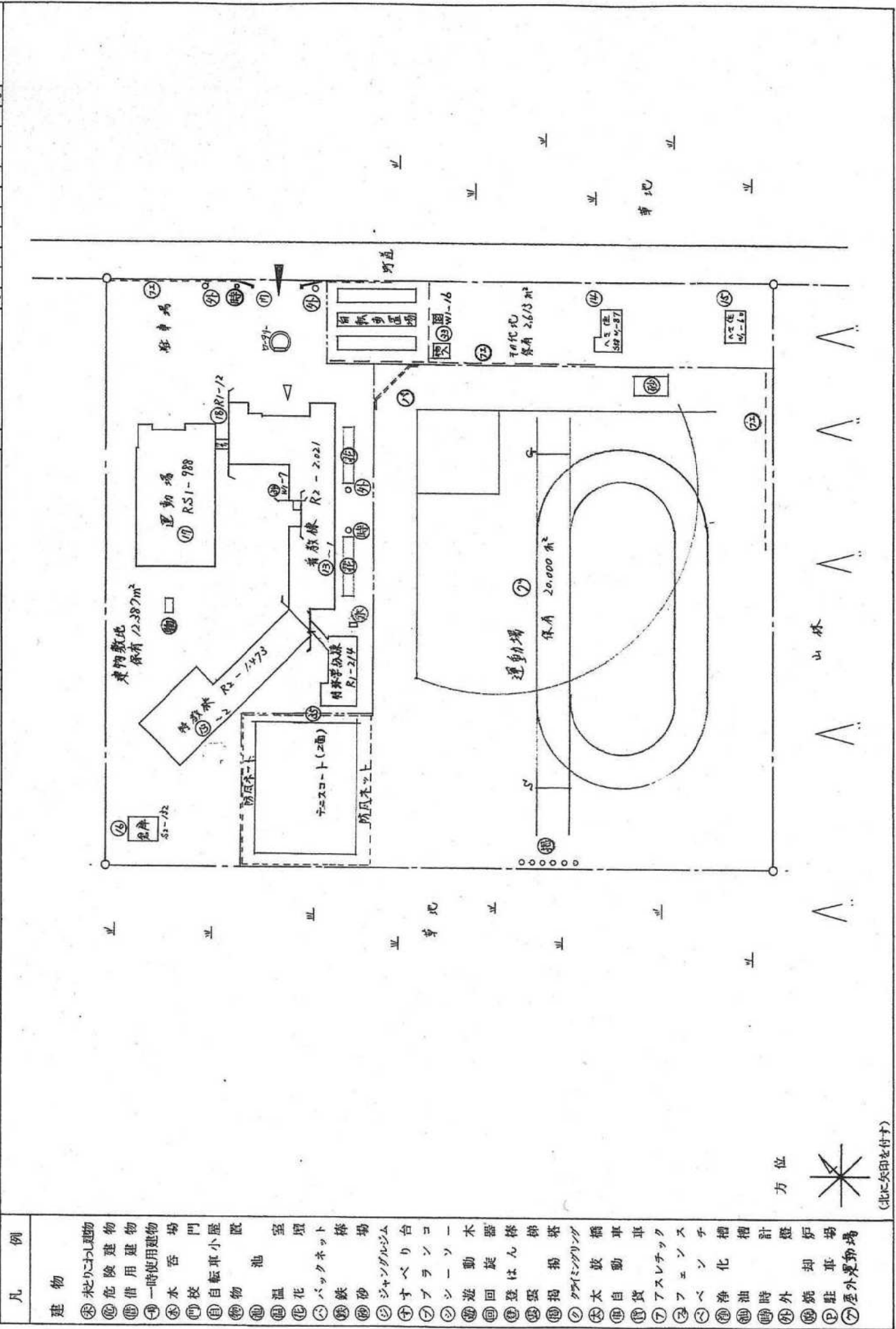
外力条件：地盤種別 — 2種地盤

敷地条件 — 平坦地

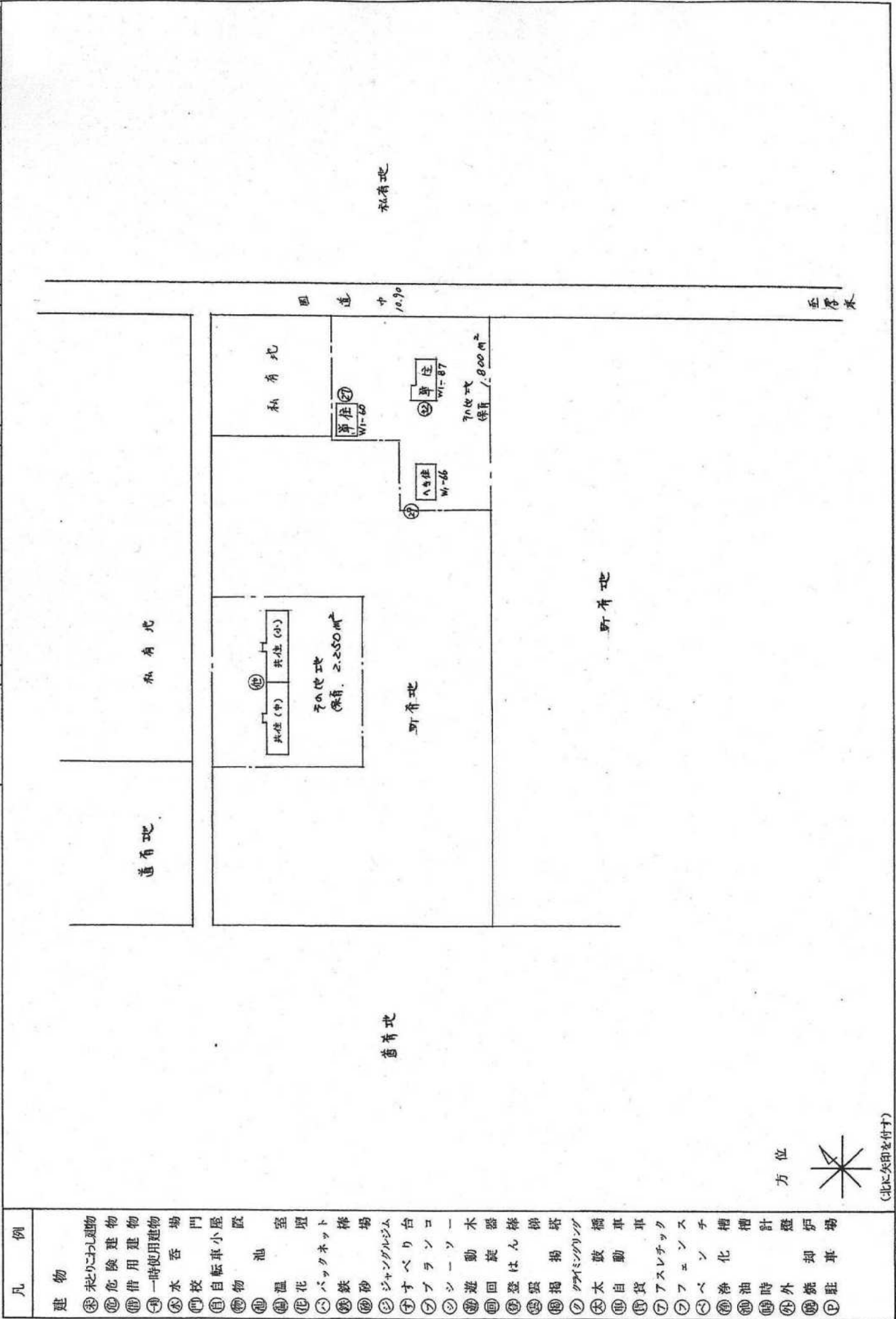
外力条件：積雪寒冷地域 — 1級積雪寒冷地域

外力条件：海岸からの距離 — 8 kmを超える

地盤調査報告書の有無：有



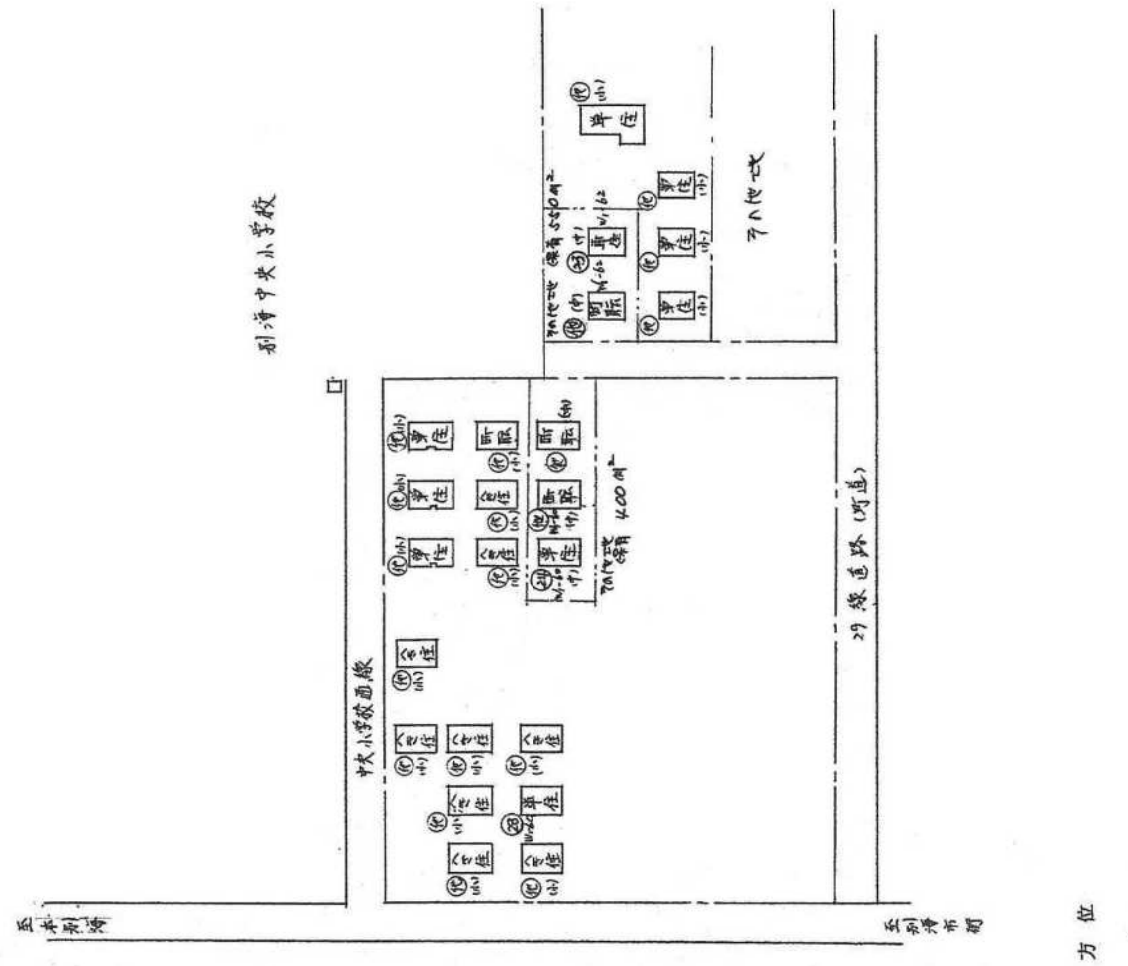
令和6年度	配置図	縮尺	0 10 20 30 m	1/1,200 (B4)	学校名	別海中央中学校	調査番号	016915183	(学校)	1553-2
-------	-----	----	--------------	--------------	-----	---------	------	-----------	------	--------



- | 凡例 | 建物 |
|----|----------|
| ㊸ | 未とりこぼし建物 |
| ㊹ | 危険建物 |
| ㊺ | 借用建物 |
| ㊻ | 一時使用建物 |
| ㊼ | 本舎 |
| ㊽ | 門 |
| ㊾ | 自転車小屋 |
| ㊿ | 物置 |
| ㊻ | 池 |
| ㊼ | 温室 |
| ㊽ | 花壇 |
| ㊾ | バッグネット |
| ㊿ | 鉄棒 |
| ㊻ | 砂場 |
| ㊼ | ジャンダルジュム |
| ㊽ | すべり台 |
| ㊾ | ラウンジ |
| ㊿ | 遊具 |
| ㊻ | 回遊 |
| ㊼ | 登壇 |
| ㊽ | 雲梯 |
| ㊾ | 掲揚 |
| ㊿ | クワイミング |
| ㊻ | 太鼓 |
| ㊼ | 自転車 |
| ㊽ | 貸車 |
| ㊾ | アスレチック |
| ㊿ | フェンス |
| ㊻ | トンネル |
| ㊼ | 浄化槽 |
| ㊽ | 油槽 |
| ㊾ | 時計 |
| ㊿ | 外壁 |
| ㊻ | 駐車 |

配置図	細尺	令和6年度	1/1,200	《距離》	0 10 20 30 m	学校名	利海中央中学校	調査番号	01	(市町村)	691	(学校)	5183	整理番号	1553-3
-----	----	-------	---------	------	--------------	-----	---------	------	----	-------	-----	------	------	------	--------

利海中央小学校



凡例	建物
㊸	起りこり建物
㊹	危険建物
㊺	借用建物
㊻	一時使用建物
㊼	水呑
㊽	門
㊾	自転車小屋
㊿	物置
①	温室
②	花
③	バットネット
④	鉄
⑤	砂
⑥	ジャンダルジム
⑦	すべり
⑧	ラ
⑨	ソ
⑩	遊動
⑪	回
⑫	登
⑬	雲
⑭	掲
⑮	クアイミンダリソク
⑯	木
⑰	自動車
⑱	貨
㉑	アスレチック
㉒	フ
㉓	ベ
㉔	浄
㉕	油
㉖	計
㉗	外
㉘	炉
㉙	駐
㉚	場

「特別教室」及び「余裕教室」確認表

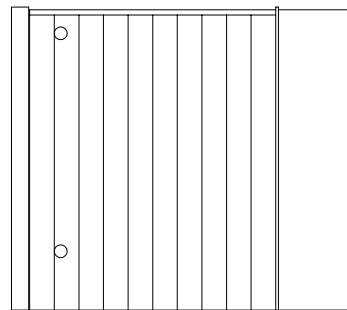
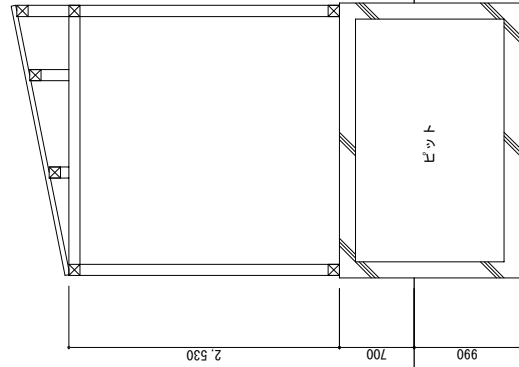
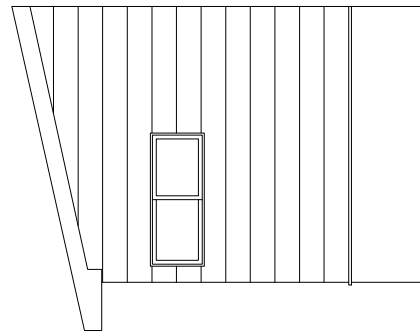
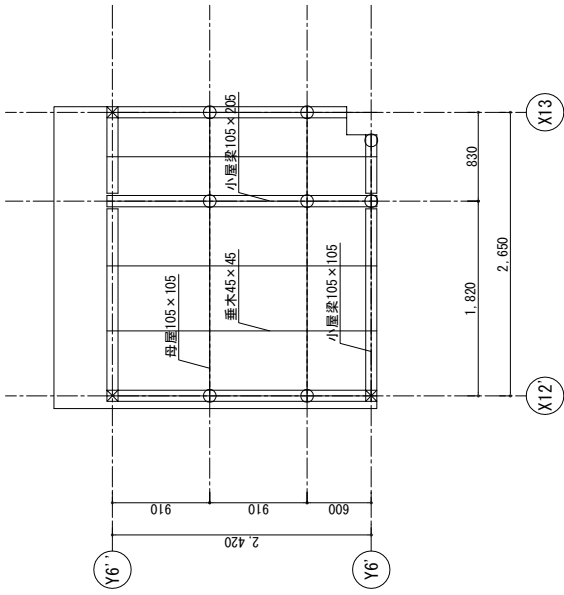
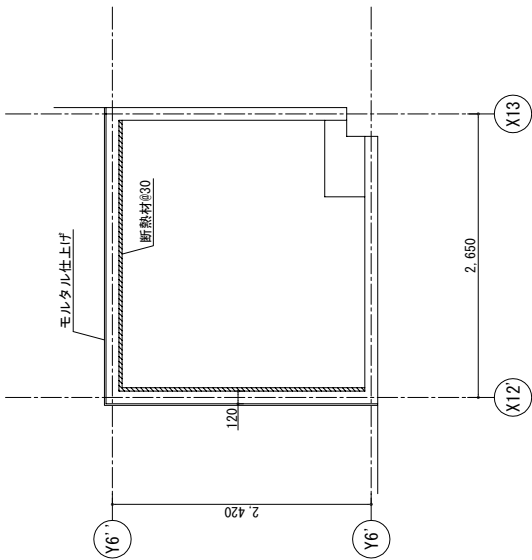
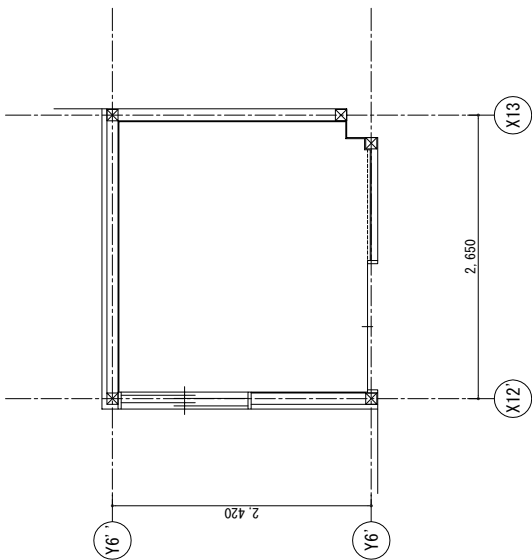
学 校 名	別海中央中学校
-------	---------

「特別教室」確認表 総括表22「特別教室数」と一致		
部屋 番号	特別教室名 (平面図の教室 名)	備 考 (総括表の区分)
1	理科室	理科教室
2	技術室	技術教室
3	家庭科室	家庭教室1
4	家庭科室	家庭教室2
5	教育相談室	教育相談室
6	美術室	美術教室
7	音楽室	音楽教室
8	L・L教室	外国語教室
9	視聴覚室	視聴覚教室
10	図書室	図書室
11	特別活動室	特別活動室
12	生徒会室	特別活動室
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		

「特別教室」確認表 総括表22「特別教室数」と一致		
部屋 番号	特別教室名 (平面図の教室 名)	備 考 (総括表の区分)
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

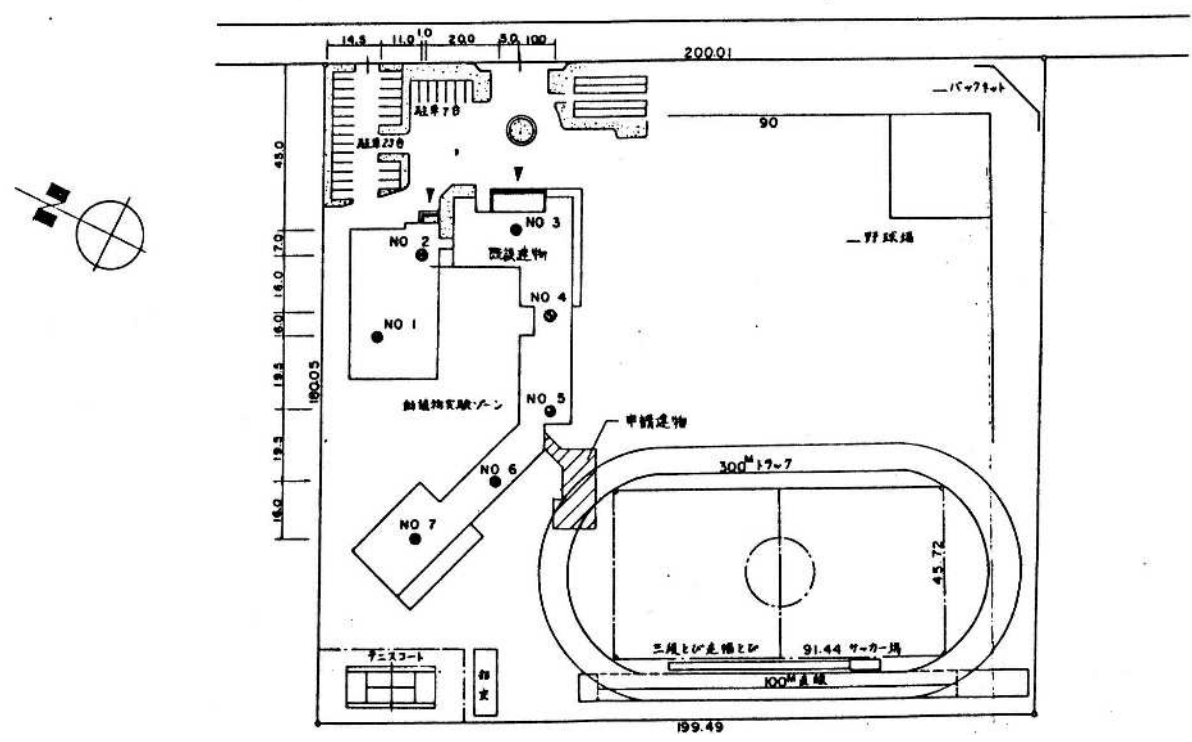
「余裕教室」確認表 総括表22「普通教室数」－「学級数」と一致		
部屋 番号	余裕教室名	備 考
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		

※「特別教室名」・「余裕教室名」欄は、「平面図」の各教室名と一致させること。
 ※「備考」欄には、台帳の総括表における区分上の名称を記入すること。
 その区分上の名称の室数が複数ある場合は、区分上の名称と連番を記入すること。

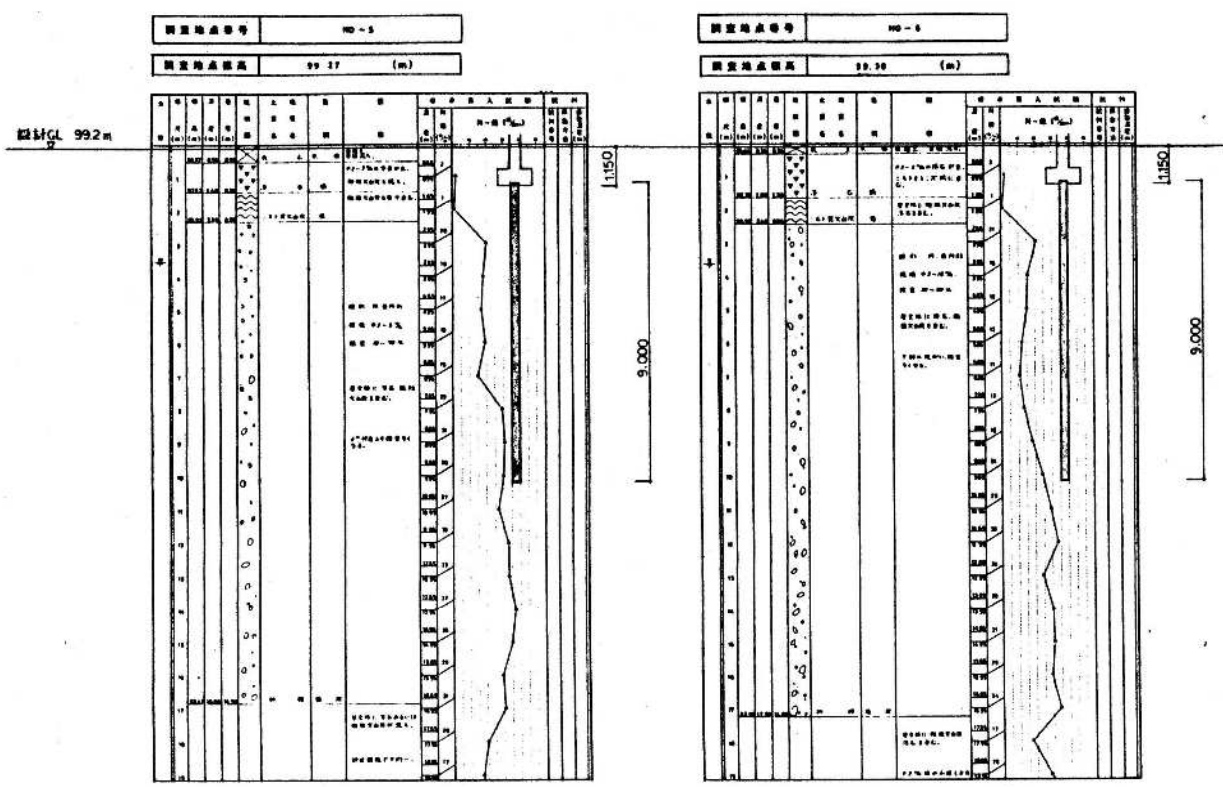


概略図面

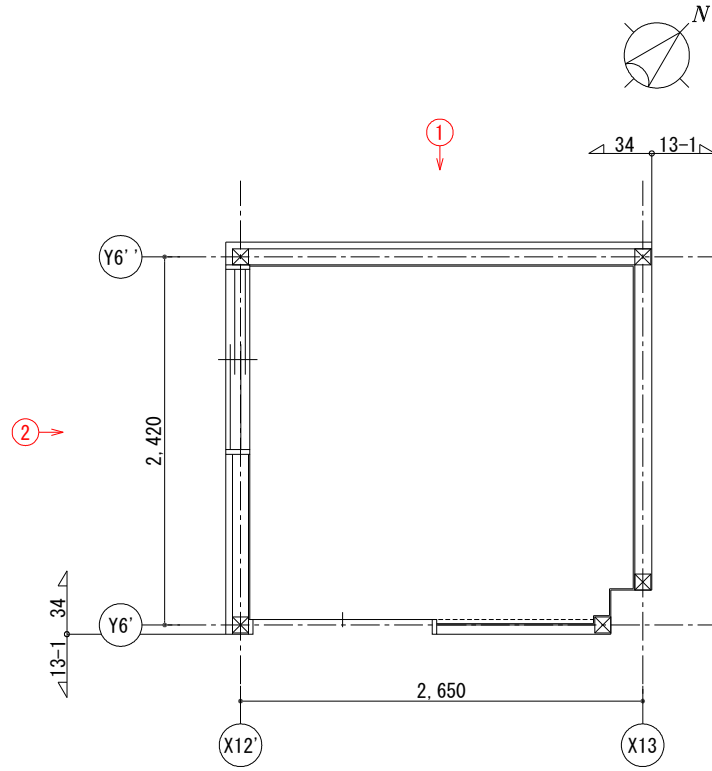
平面図 S = 1 : 1000



ボーリング調査位置図



ボーリング柱状図



平面图

写真摄影位置图

	<p>写真 No. 1</p> <p>調査項目 耐力度調査</p> <p>撮影場所 北面</p> <p>状況 全景</p>
	<p>写真 No. 2</p> <p>調査項目 耐力度調査</p> <p>撮影場所 西面</p> <p>状況 全景</p>
	<p>写真 No.</p> <p>調査項目</p> <p>撮影場所</p> <p>状況</p>

3. 構造耐力度測定

構造耐力

当該建物は平成6年1月建設の建物であり、新耐震基準の建物である。

① 保有耐力

(a) 水平耐力 q

新耐震基準の建物のため満点とすることから、評点は**1.0**とする。

(b) 低減係数

■ 接合金物 K_j

接合金物の低減係数は下記による。

接合Ⅰ	引き寄せ金物など	1.0
接合Ⅱ	羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓	0.9
接合Ⅲ	ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)	0.8
接合Ⅳ	ほぞ差し、釘打ち、かすがい等	0.7

羽子板ボルトやかすがいの使用が確認されたため、接合Ⅲの**0.8**とする。

■ 偏心 K_r

偏心率の計算値 R_e は求められていないため下記による。

外周壁面で壁長の少ないほうを多いほうで割った値	1/2 以上	1.0
同上	1/2 未満 1/3 以上	0.8
同上	1/3 未満 1/4 以上	0.7
同上	1/4 未満	0.5

壁長の少ないほう : 2.42m

壁長の多いほう : 2.65m

$2.42/2.65=0.91$ よって、**1.0**

■ 基礎構造 K_f

基礎構造の低減係数は下記による。

基礎Ⅰ	健全なRC造の布基礎またはべた基礎	1.0
基礎Ⅱ	ひび割れのあるRC造の布基礎またはべた基礎、無筋コンクリートの布基礎(軽微なひび割れを含む)、柱脚に足固めを設けた玉石基礎	0.9
基礎Ⅲ	その他の基礎	0.8

当該建物は、身障者用便所であり基礎はH=1,360のピットである。ただし、外部の一部にひび割れが確認されたため、基礎Ⅱの**0.9**とする。

② 工法の特徴

当該建物に設計図書は現存してなく、耐震診断も実施していない。また、内外装材の撤去も難しかったことから、耐力壁の種類は不明である。

よって、減点を行わずに評点は **1.0** とする。

③ 基礎構造 β

基礎構造は下記により判定する。

$$\beta = u \cdot p$$

ここで、 u ：当該基礎の種類に応じた下記の値

基礎Ⅲ 以下に該当しない基礎 0.8

基礎Ⅱ ひび割れのある RC 造の布基礎またはべた基礎、無筋コンクリートの布基礎(軽微なひび割れを含む)、柱脚に足固めを設けた玉石基礎
0.9

基礎Ⅰ 健全な RC 造の布基礎またはべた基礎 1.0

P ：基礎の被害予測に関する下記の項目の内、該当する最小の値とする。

液状化が予想される地域である 0.8

軟弱地盤である 0.9

上記に該当しない場合 1.0

判別式

$1.0 \leq \beta$ または測定しない場合 …………… 1.0

$0.64 < \beta < 1.0$ …………… 直線補間

$\beta \leq 0.64$ …………… 0.64

$$\beta = 0.9 \cdot 1.0 = 0.9$$

よって、 $0.64 < \beta < 1.0$ に該当することから直線補間より、評点は **0.9** とする。

④ 地震による被災履歴 E

被災履歴は下記により判定する。

無被害～小破 1.0

中破 0.7

大破 0.5

当該建物に被災履歴はないことから評点は **1.0** とする。

4. 健全度測定

② 木材の腐朽度 D

1) 外壁土台と外壁柱の腐朽度

当該建物の内外装材の撤去が難しかったことから、腐朽状況は不明である。
よって、減点を行わずに評点は **1.0** とする。

2) 床梁と小屋梁の腐朽度

(a) 床梁

当該建物はピットの上に木造建物が建設されているため床梁はなしとする。

(b) 小屋梁

小屋梁腐朽度は下記により判定する。

判別式

$\max(d4) \leq 0.3$	1.0
$0.3 < \max(d4) \leq 0.6$	直線補間
$0.6 < \max(d4)$	0.5

ここで、d4：腐朽本数/小屋梁本数

腐朽本数は見られなかったため 0 本、小屋梁本数は 4 本であるため、 $D4=0/4=0$ 本であることから、 $\max(d4) \leq 0.3$ に該当するため、評点は **1.0** とする。

③ 基礎の状態 F

1) 基礎の劣化

基礎の劣化は下記により判定する。

$$df = l_d / l$$





ここで、df：基礎の健全度

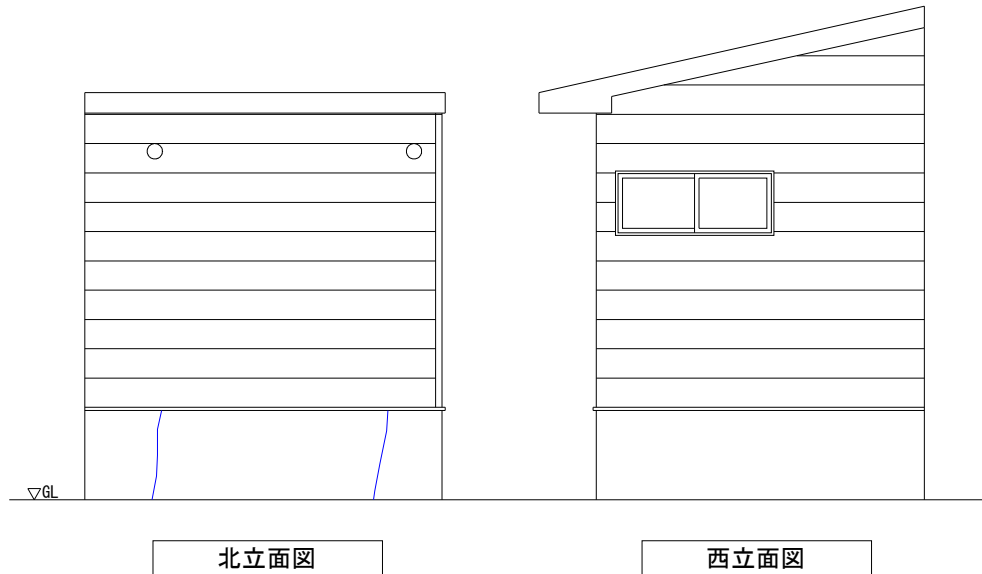
l_d：割れを有する基礎長さ

l：建物外周基礎全長

判別式

$\max(df \times 100) \leq 0.2$	1.0
$0.2 < \max(df \times 100) \leq 0.5$	直線補間
$0.5 < \max(df \times 100)$	0.5

凡 例	
	ひび割れ 幅0.3mm未満
	ひび割れ 幅0.3mm以上1.0mm未満
	ひび割れ 幅1.0mm以上
	ひび割れ幅測定位置



割れを有する基礎長さ(幅 0.3mm 以上のひび割れ)は見られなかったため 0.0m、建物外周基礎全長は 10.14m であるため、 $df = 0 / 10.14 = 0.0$ であることから、 $\max(df \times 100) \leq 0.2$ に該当するため、評点は **1.0** とする。

2) 基礎の傾斜

当該建物には、不同沈下に起因するひび割れが確認されなかったため、省略し満点とする。

④ 部材の傾斜、たわみ R

1) 柱の傾斜

当該建物の内外装材の撤去が難しかったことから、柱の傾斜想定は除外した。
よって、減点を行わずに評点は **1.0** とする。

2) 床梁のたわみ

当該建物はピットの上に木造建物が建設されているため床梁はなしとする。

⑤ 床鳴り、振動障害

1) 床鳴りの有無 α

床鳴りの判別は下記により判定する。

床鳴りのする室が全くない場合 $\alpha=0$

床鳴りのする室が 2 割程度以下の場合 $\alpha=1$

床鳴りのする室が 2 割程度以上の場合 $\alpha=2$

2) 振動障害の有無 β

振動障害の有無は下記により判定する。

振動を感じない、ほとんど感じない $\beta=0$

時々不快な振動を感じる $\beta=1$

常に不快な振動を感じる $\beta=2$

3) 判別式

$\alpha + \beta \leq 1$ 1.0

$\alpha + \beta = 2$ 0.9

$3 \leq \alpha + \beta$ 0.8

当該建物はピットの上に木造建物が建設されているため木組みの床はないため $\alpha=0$ 、振動障害は感じないため $\beta=0$ となる。

よって $\alpha + \beta = 0$ であり、 $\alpha + \beta \leq 1$ に該当することから、評点は **1.0** とする。

⑥ 火災の被災経験 S

火災の被災経験による判別は下記による。

被災経験無し	S=0
煙害程度の被災経験有り	S=0
非構造部材が燃焼する被害が一部にある	S=1
非構造部材が燃焼する被害が比較的大きい	S=2
構造材が一部燃焼する被害あり	S=3
燃焼した構造材を全て新材で補修	S=0

判別式	$S \leq 1$	1.0
	$S = 2$	0.95
	$S = 3$	0.9

当該建物は、建築当初より火災による被災を受けていないことから S=0 とし、判別式 $S \leq 1$ に該当することから、評点は **1.0** とする。

⑦ 雨漏り痕の有無 U

雨漏り痕の有無による判別は下記による。

雨漏り痕無し	U=0
小屋裏あるいは内壁に一部雨漏り痕あり(乾燥状態)	U=0
小屋裏あるいは内壁に多数の雨漏り痕あり(乾燥状態)	U=1
小屋裏あるいは内壁に一部雨漏り痕あり(湿潤状態)	U=2
小屋裏あるいは内壁に多数の雨漏り痕あり(湿潤状態)	U=3

判別式	$U \leq 1$	1.0
	$U = 2$	0.95
	$U = 3$	0.9

当該建物に雨漏り痕は見られなかったことから U=0 とし、判別式 $U \leq 1$ に該当することから、評点は **1.0** とする。

5. 記録写真



室内全景	写真番号
	1

室内全景	写真番号
	2



小屋裏 接合金物状況 羽子板ボルト及びびかすがいが使用されている	写真番号
	3

小屋裏 接合金物状況 羽子板ボルト及びびかすがいが使用されている	写真番号
	4



小屋裏 接合金物状況 写真番号3.4詳細	写真番号
	5

小屋裏 接合金物状況 写真番号3.4詳細	写真番号
	6



ピット内部 基礎構造β ピット出入口状況	写真番号
	7



ピット内部 基礎構造β 外周部状況	写真番号
	8



ピット内部 基礎構造β 外周部状況	写真番号
	9



ピット内部 基礎構造β 外周部状況	写真番号
	10



ピット内部 基礎構造β 13-1棟との接合部状況	写真番号
	11



ピット内部 基礎構造β 13-1棟との接合部状況	写真番号
	12



小屋裏 木材の腐朽度D 腐朽は見られない	写真番号
	1



小屋裏 木材の腐朽度D 腐朽は見られない	写真番号
	2



小屋裏 木材の腐朽度D 腐朽は見られない	写真番号
	3



小屋裏 木材の腐朽度D 腐朽は見られない	写真番号
	4



小屋裏 木材の腐朽度D 腐朽は見られない	写真番号
	5



小屋裏 木材の腐朽度D 腐朽は見られない	写真番号
	6



基礎 基礎の状態F 幅0.3mm未満のひび割れが部分的にみられる	写真番号
	1

基礎 基礎の状態F 写真番号1詳細	写真番号
	2



	写真番号

	写真番号



	写真番号

	写真番号

6. 外力条件

外力条件

① 地震地域係数

地域区分は建設省告示第 1793 号(最終改正：平成 19 年国土交通省告示第 597 号)に基づき 1.0 となるため、地震地域係数は一種地域 **0.8** とする。

対応表

①地震地域係数		建設省告示1793号	
		地方	数値(z)
四種地域	1.0	(四)	0.7
三種地域	0.9	(三)	0.8
二種地域	0.85	(二)	0.9
一種地域	0.8	(一)	1.0

② 地盤種別

第一種地盤	岩盤、砂質砂れき層その他主として第三紀以前の地層によって構成されているもの又は地盤周期等についての調査若しくは研究の結果に基づき、これと同程度の地盤周期を有するとみとめられるもの	0.4
第二種地盤	第一種地盤及び第三種地盤以外のもの	0.6
第三種地盤	腐食土、泥土その他これらに類するもので大部分が構成されている沖積層（盛土がある場合においてはこれを含む。）で、その深さがおおむね30メートル以上のもの、泥沢、泥海等を埋め立てた地盤の深さがおおむね3メートル以上であり、かつ、これらで埋め立てられてからおおむね30年経過していないもの又は地盤周期等についての調査若しくは研究の結果に基づき、これらと同程度の地盤周期を有するとみとめられるもの	0.8

②地盤種別	
一種地盤	1.0
二種地盤	0.9
三種地盤	0.8

③ 敷地条件

建物周辺は、平坦な土地であるため、平坦地 **1.0** とする

④ 積雪寒冷地域

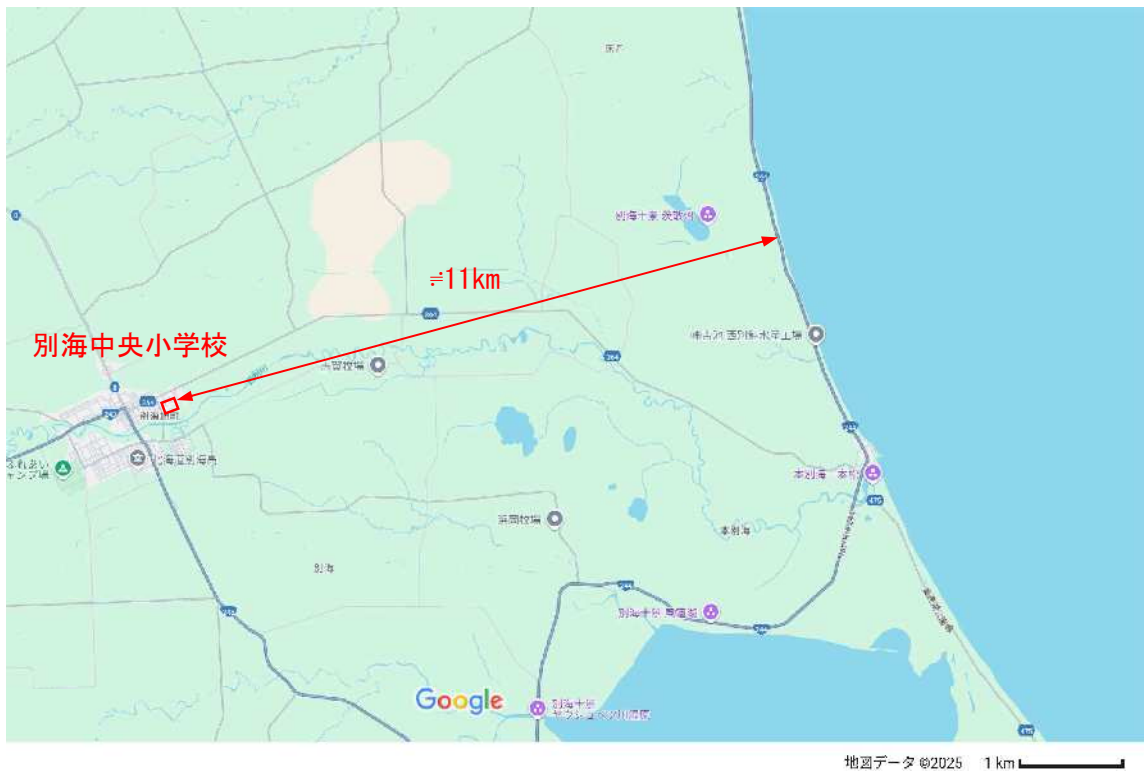
義務教育諸学校等の施設費の国庫負担法等に関する法律施行令第 7 条第 5 項により全国を一級積雪寒冷地域、二級積雪寒冷地域、その他地域の 3 種の区分に分けている。

- (a) 「一級積雪寒冷地域」とは、冬期平均気温零下 5 度以下又は積雪量 300 月センチメートル以上の地域
- (b) 「二級積雪寒冷地域」とは、冬期平均気温零下 5 度から零度まで又は積雪量 100 月センチメートル以上 300 センチメートル未満の地域
- (c) 「その他地域」とは、一級または二級積雪寒冷地域のいずれにも該当しない地域

当該地域は一級寒冷地域に該当する。

④積雪寒冷地域	
その他の地域	1.0
二級積雪寒冷地域	0.9
一級積雪寒冷地域	0.8

⑤ 海岸からの距離



海岸からの距離

⑤海岸からの距離	
海岸から8kmを超える	1.0
海岸から8km以内	0.9
海岸から5km以内	0.8